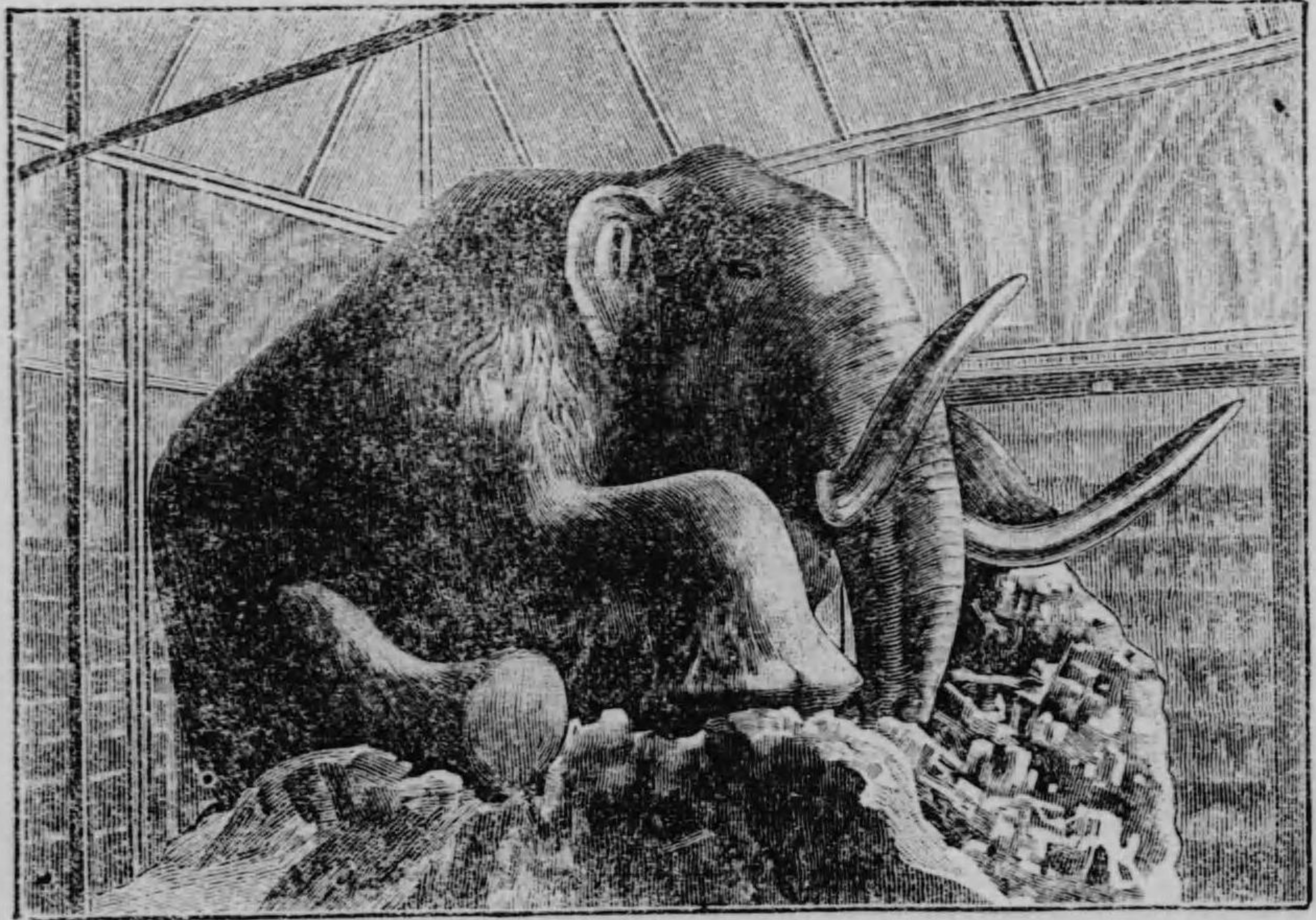


第 二 百 二 十 七 圖



マモンヌの剥製 (ベログロラ博物館)

三七〇  
圖イ)ミロドン、グリプトドン、(同ロ) デヂクルス(同ハ)等で、此等は現在の産する同類より遙に大である。外にトクソドン(第二百二十六圖)といふ滅亡動物もある。

### 亞細亞の洪積統

ヒマラヤ山、天山、崑崙山、カウカサス山等には、往古の氷河の遺した跡があるとの事であるが、此の方の研究は未だ歐米のやうに進んでゐないから、精しい事はまだ不明である。それで直に亞洲動物に就て述べれば、先づ西伯利亞

の地にはマンモスの遺骨が極めて多い。それで此の象の巢窟は全く此の地で、その他國に産するものは此の地から移住したのであらうとの説がある。又此の地には從來その凍結地盤中からマンモスの屍の掘り出されたことが數回ある。此の屍は、寒氣の爲に、今日まで少しも腐敗せずに保存された珍標本である。その一で剥製にしたのは現にペトログラードの博物館に陳列してある(第二百二十七圖)。是によると、此の象は黒褐色を帯び、全身褐色の長毛を密生して、寒氣に耐ふる種であつたことは明である。尙メルク犀の屍も發見されて居る。支那には黄土と稱ふる厚さ數百米に及ぶ土層がある。此の中并諸處の洞窟中に、多數の哺乳類の骨が發見されて、その種類は熊、ヒエナ、犀、マンモス、鹿、牛、馬等に屬して居る。

### 日本の洪積統

日本の洪積層は、未だ充分に研究されてゐないから、確實なことは不明であるが、東京附近の平原では、その表面を蔽ふ埴垣が洪積層と見做されて居る。此の土は

無層理無化石で、その質から云ふと、陸上に降下した火山灰の變質したものである。總房半島の沿岸には、介類を含む砂がある。此等は或は洪積層かも知れぬ。房州には武藏野系の下部の上に、珊瑚と介類とを産する砂土がある。珊瑚は今薩摩以南に産する珊瑚で、介もその中に熱帯産を混じて居る。此等の事實から觀れば現世界のものではなく、洪積世のものらしい。

尚全國の河畔の段丘を成す砂利や、火山質の集塊岩中に洪積世のものが多いと思はれる。

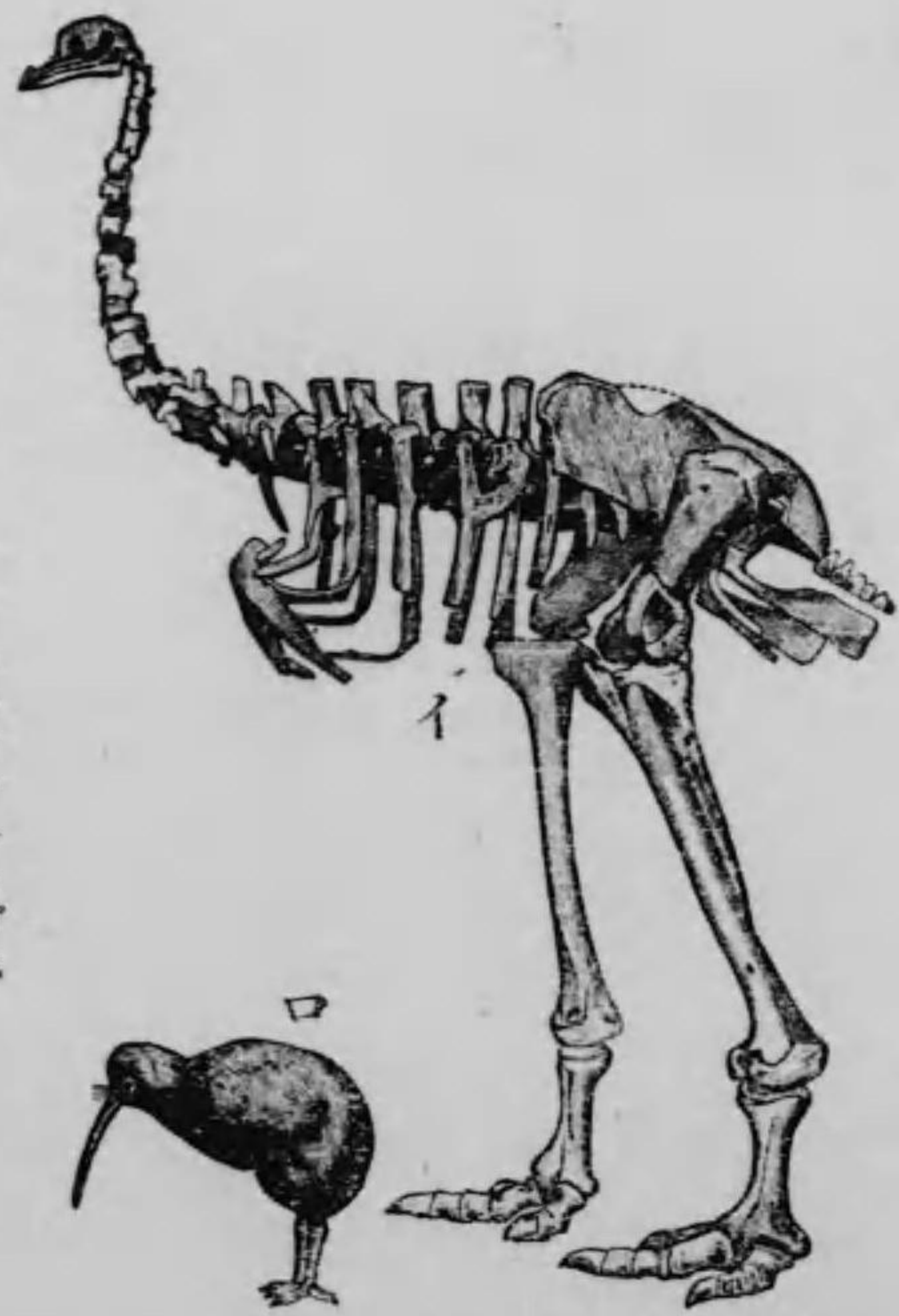
日本は洪積世中氷河を産しなかつた國の一である。もし房州の珊瑚層が眞に洪積のものなら、當時の氣候は今より暖であつたことになる。

### 濠洲と亞弗利加の洪積統

濠洲とニウジールランドとの山には、古い大氷河の遺跡があるとの事である。

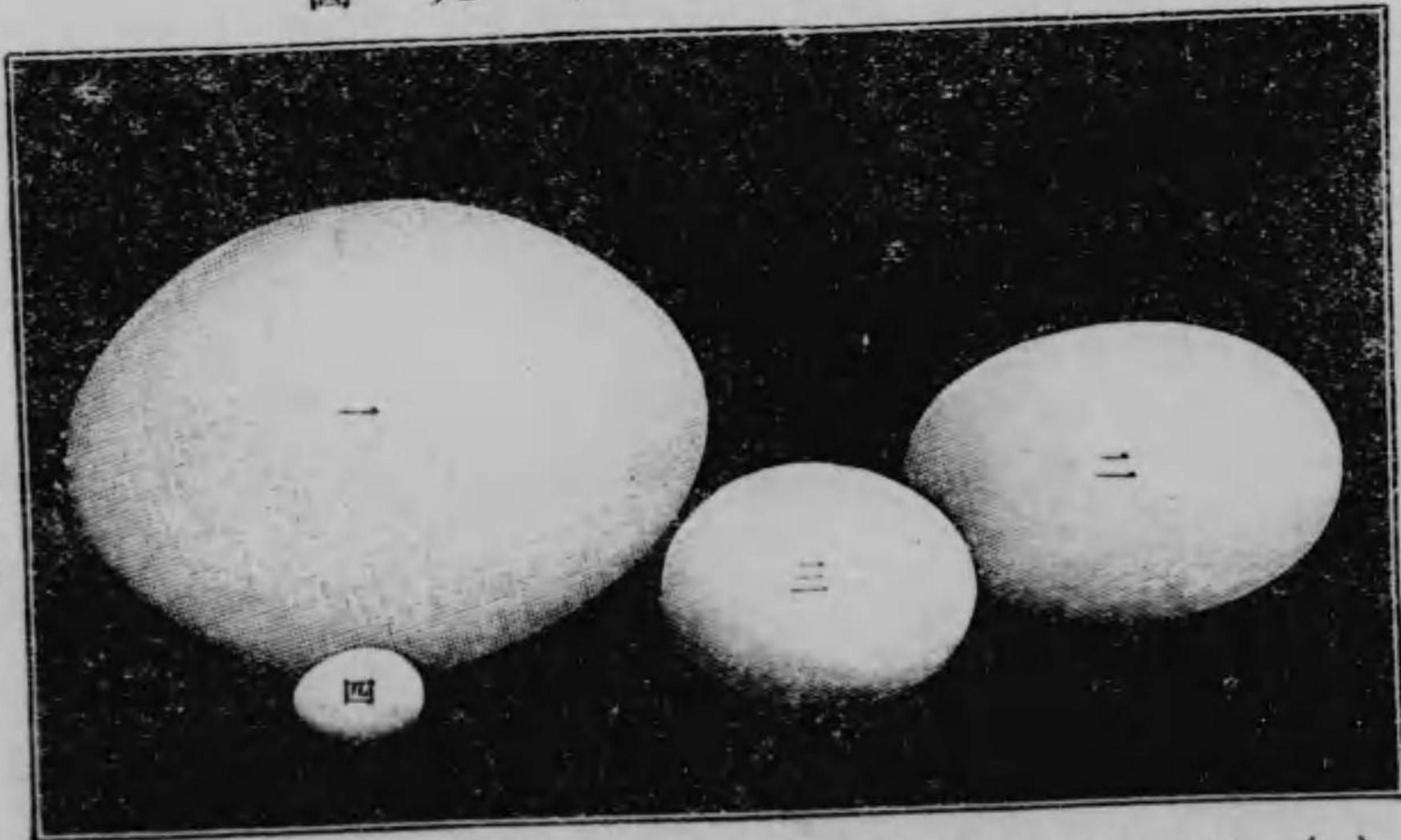
濠洲の洪積世哺乳類は、今と同じく、主として有袋類で、その中には今日のものより遙に大きなものもある。デプロトドンDeplatodonの如きはその一例である。

ニウジールランドには、俗にモアMoa(第二百二十八圖)と稱へる無翼の大走鳥がゐた。此の鳥



(イ)モア(學名*Parapteryx・エレファントプス*)  
(ロ)モアの後裔キウイ(今尚ニウジールランドに産する雞犬の鳥)  
は今のキウイの祖先で、身長一丈三尺餘に及ぶから、雞犬のキウイに比べては非常に大

第二百二十九圖



(一)卵のスニルオビエ (二)卵のアモの位中 (三)卵の鳥駝 (四)卵の雞家

である。

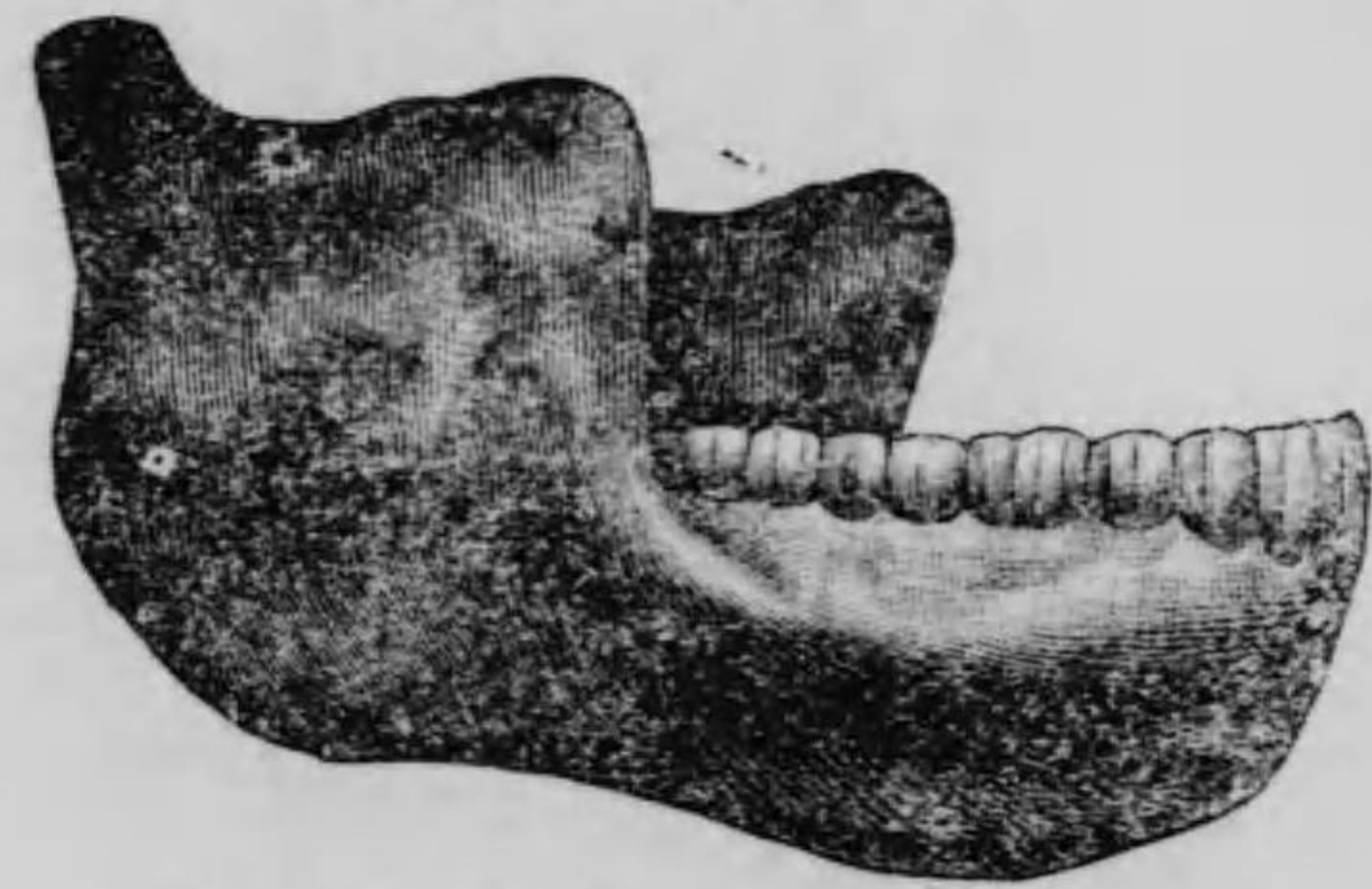
阿弗利加のマダガスカル島にも、エビオルニスといふモア類似の大鳥がゐた。

此の鳥は久しく其の卵(第百二十九圖)でのみ知られてゐたが、今はその骨も発見されて居る。

### 洪積世の人類

洪積世中人類の産したことは、久しくその手になつた石器で知れてゐたが、今はその骨も諸方に発見されて居る。蓋し其の最も古いのは獨逸ハイデルベルク附近の下顎骨で、之を産した地層は洪積最舊の層である。此の骨にはハイデルベルグ人(ホモ・ハイデルベルグ)の名が附いてゐて、その形は高等猿のものに酷似して居るが、齒は人的である。

第百三十三圖

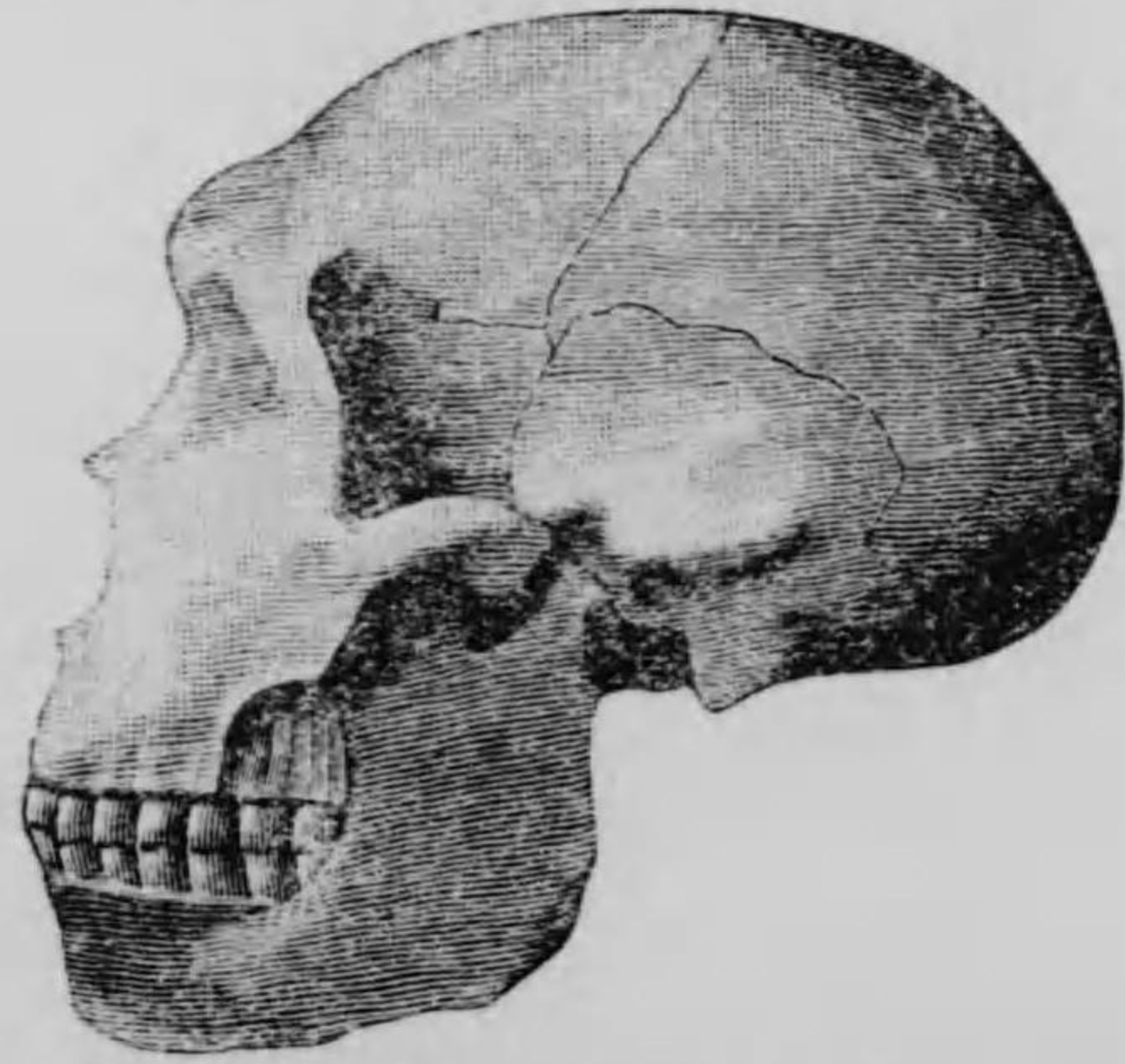


ホモハイデルベルグの顎骨

次きは洪積中部の産と思はれる原人(ホモ・プリミゼニウス(第百三十一圖)であ

る。是れは獨佛白澳等に発見されて、ハイデルベルグ人に比すれば遙に人的であるが、尚眼窩上の骨の突出すること、願が出てゐないこと、低額であること等は猿的である。

第百三十一圖



ホモ・プリミゼニウス(原人)の産地

第百三十三圖



原人復舊圖

尚英國産にドーンソン人(エオアンスロブス・ドーンソン(第百三十三・四圖)といふものがある。是は高類ではあるが、願のないことは原人同様である。此の物の時代

は洪積世に違ひないが、その何れの部分か未だ判然しない。今の人(ホモ・サピエン  
ス)も既に洪積世の末期に産してその中には今の阿弗利加や濠洲の主人に似たも  
のもある。

圖三十三百二第



ニソド・スプロスンアオエ

圖四十三百二第



圖舊復のスプロスンアオエ

右によれば、洪積世中人屬の既に存在したことは確實である。然らばその前の  
第三紀には如何といふに、曾てジャワ島のトリニル層に、ヒテカントロプス・ユレク  
タス(直立猿人の意第二百三十五六圖)と名づけられた猿と人との中間動物のやう

なもの、骨が発見されて、しかもその層が第三紀と思はれた爲に、一時大に學者の  
注意を惹いたことがある。併しその後この層は洪積下部より古からざるもので、  
その化石も人といふより寧ろ猿と云つた方が至當のことになつた。因つて第三

圖五十三百二第



スタクレエ・スプロトンカテビ

圖六十三百二第



圖舊復のスプロトンカテビ

紀人類の話も中絶してしまつた。その後第三紀には、人屬は固より、人屬類似のも  
のもまだ発見されてゐない。但し之に據て人屬は第三紀には未だ發生してゐな  
かつたと斷言することは出来ない。

(二) 冲積統

冲積統は現世界で、之に屬する地層は今現に湖河海等に沈澱しつゝある土砂礫  
暖海の珊瑚礁、海濱や沙漠の砂丘、陸上や海底の火山噴出物等で、此等の説明は本書  
の前編に在る。

大正八年七月十二日印刷  
大正八年七月十五日發行

(正價金參圓)



著者 横山 又次郎

發行者 荒川 信賢  
東京市小石川區音羽町四丁目十一番地

印刷者 渡邊 八太郎  
東京市牛込區榎町七番地

發行所

東京市牛込區  
早稻田

早稻田大學出版部

(發售口座東京一三三番)

→[刷印社會式株刷印清日]←

所 捌 賣

東京神田  
東京日本橋  
東京京橋  
東京東區  
大阪東區  
名古屋

東京堂  
至誠堂  
北隆館  
東海堂  
盛文館  
星野文星堂

(其地各書)

381  
20

終